

勝興寺/台所

台所兼食事の間は、僧侶たちが食事を用意し、巡礼者たちと食事をする場所で、台所を含めて広さは 500 平方メートル近くあります。この広間は 1863 年に建てられました。粘土漆喰壁と太い木の梁に支えられた高く開放的な天井が特徴です。

広間への入り口には土間の炊事場があり、3 台の調理用コンロ（かまど）と食材を保管するスペースがあります。台所の残りの部分は、いろり（囲炉裏）と食事場がある一段高くなった木造の床になっています。台所兼食事の間は、地下 18 メートルから湧き出る水を供給する井戸の上に建てられています。

この広間は、成長する寺院社会のニーズに応えるため、以前の建物に代わるものとして建てられました。建物が完成した頃には、最大 100 人の僧侶や巡礼者の食事が用意されていたと考えられています。台所兼食事の間は、重要文化財に指定されています。